

2.7 風張山の地すべり（位置 No.⑬）	
発生年月日	昭和 14 年（1939）4 月 21 日 午前 9 時 10 分頃
発生地点	長野県小谷村大字千国大抜ノ沢
緯度・経度	36.7514, 137.8981
発生誘因	融雪
天然ダムの形成	有 ・ 無
被害状況	人的被害：なし、 家屋被害：倒壊 1 戸、半壊 3 戸
災害概要	4 月 21 日午前 9 時 10 分頃、風張山の山腹が雪解けで緩み、長さ 300m、幅 150 m、深さ 60m にわたって押し出しました。その土砂量は 650 万 m ³ といわれ、押し出しは対岸の親沢まで及んで姫川を堰止め、天然ダムを形成しました。姫川は融雪期で増水していたため、天然ダムの水位は上昇し、坪の沢地区の下まで冠水しました。これにより大糸線と県道（現在の国道 148 号）も水没しましたが、翌 22 日午前中には湖水が越流し始め、その後約 6 ヶ月間かけて徐々に減水していきました。



位置図

国土地理院「標準地図」に加筆

◎ 風張山の地すべりと天然ダム

風張山一帯の地質について、松本砂防事務所（2003）によれば、「大抜ノ沢沿いには、南小谷累層の細貝砂岩・礫岩層が分布している。その下には砂岩・泥岩を主とした雨中層があり、地質的に不安定な、崩壊の危険性を孕んだ急斜面が梨平～伊折付近まで約 6km 続いている」と記されています。

地すべり発生当時は融雪期の増水傾向にあったため、堰止め地点より上流の水位はたちまちのうちに上昇し、夕方には長さ 1.5km、幅 300m、最高水位 23m の天然のダム湖を形成しました。

◎ 目撃者の話と新聞記事

小谷村誌編纂委員会（1993a）より、災害当時の目撃者の話を紹介します。

「たまたま南小谷小学校付近で姫川を見ていた人の話によると、はじめ靱がらや布切れなどが流れてきたので、変だなと思っていると、今まで滔々と流れていた姫川がだんだん細くなり小沢のようになってしまったという。そのうち大騒ぎになり「風張山が抜けて親沢の集落は全滅した。」という情報が入ってきた。つづいて「鉄道も抜けの下になり、姫川が堰止められて線路は水びたしになり、だんだん湖水ようになっていく。」ということだった。鉄道はもちろん不通。現場近くへ駆けつけると、あつたはずの家は見えないで、一部の木材が散らばっているだけだったという。」

また、災害が発生した翌日の4月22日の信越新聞は、右のように報じています。

写真2.34に、災害当時の天然ダムの湛水状況と現在の同地点の写真を示します。

「北安南小谷村岩戸山の山腹が雪解けで地盤が緩み、21日午前9時10分頃、大音響とともに幅150m、長さ300m、深さ60mの山津波と称する大地滑りを起こし、下方を貫流する姫川に向かって押し出し、雪解け増水の姫川を堰止め、流水は刻刻上流に浸水して湖水と化し、更に地滑り直下の親沢区の住宅で倒壊が発生し、また、三軒の住宅は何れも半潰れとなったが、幸い人畜に死傷はなかった。」



写真 2.34 天然ダムの湛水状況と同地点の現在
（上：服部・井口、1999、下：2019年撮影）

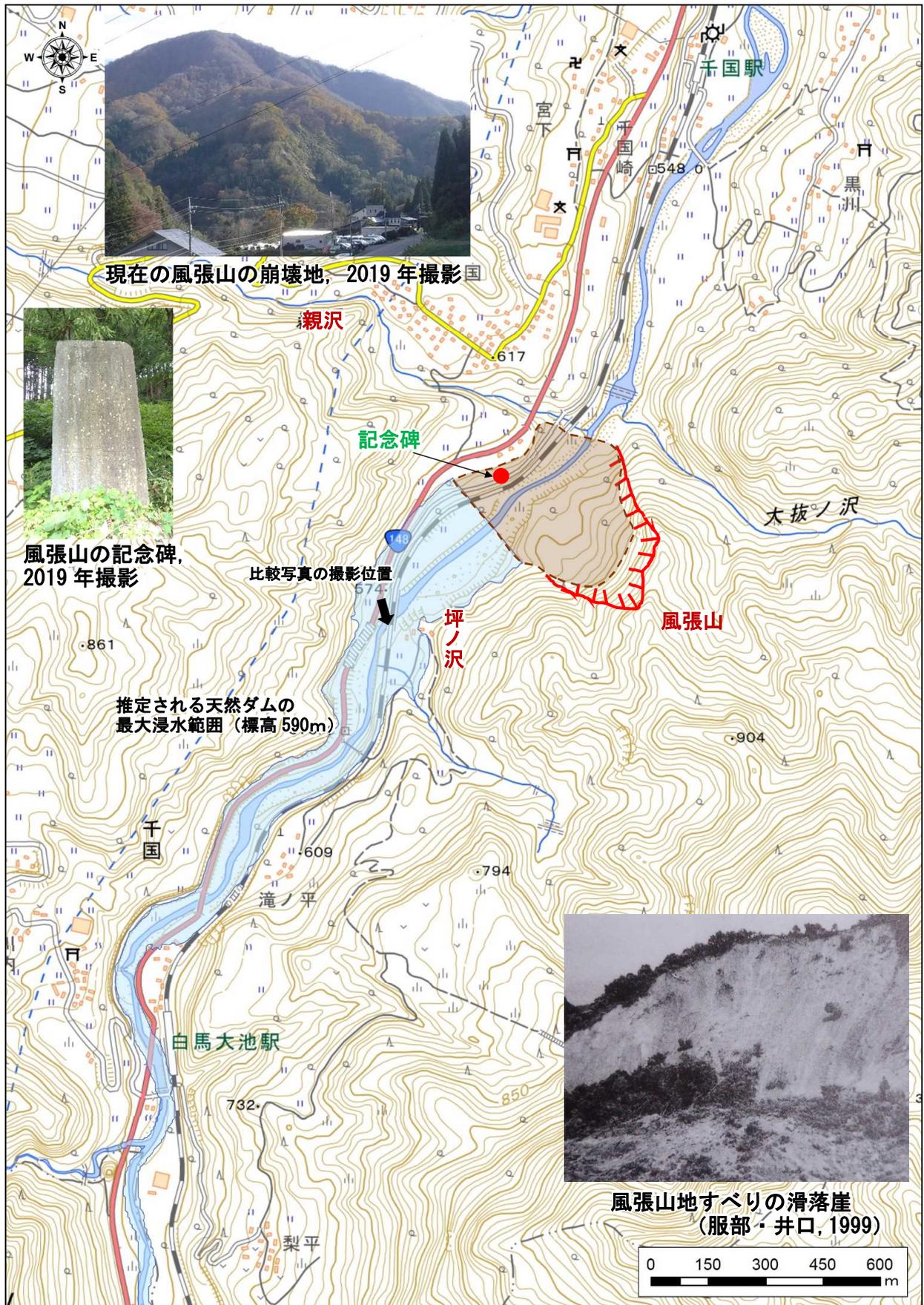


図 2.32 風張山の地すべりと天然ダムの湛水範囲（地理院地図に加筆）

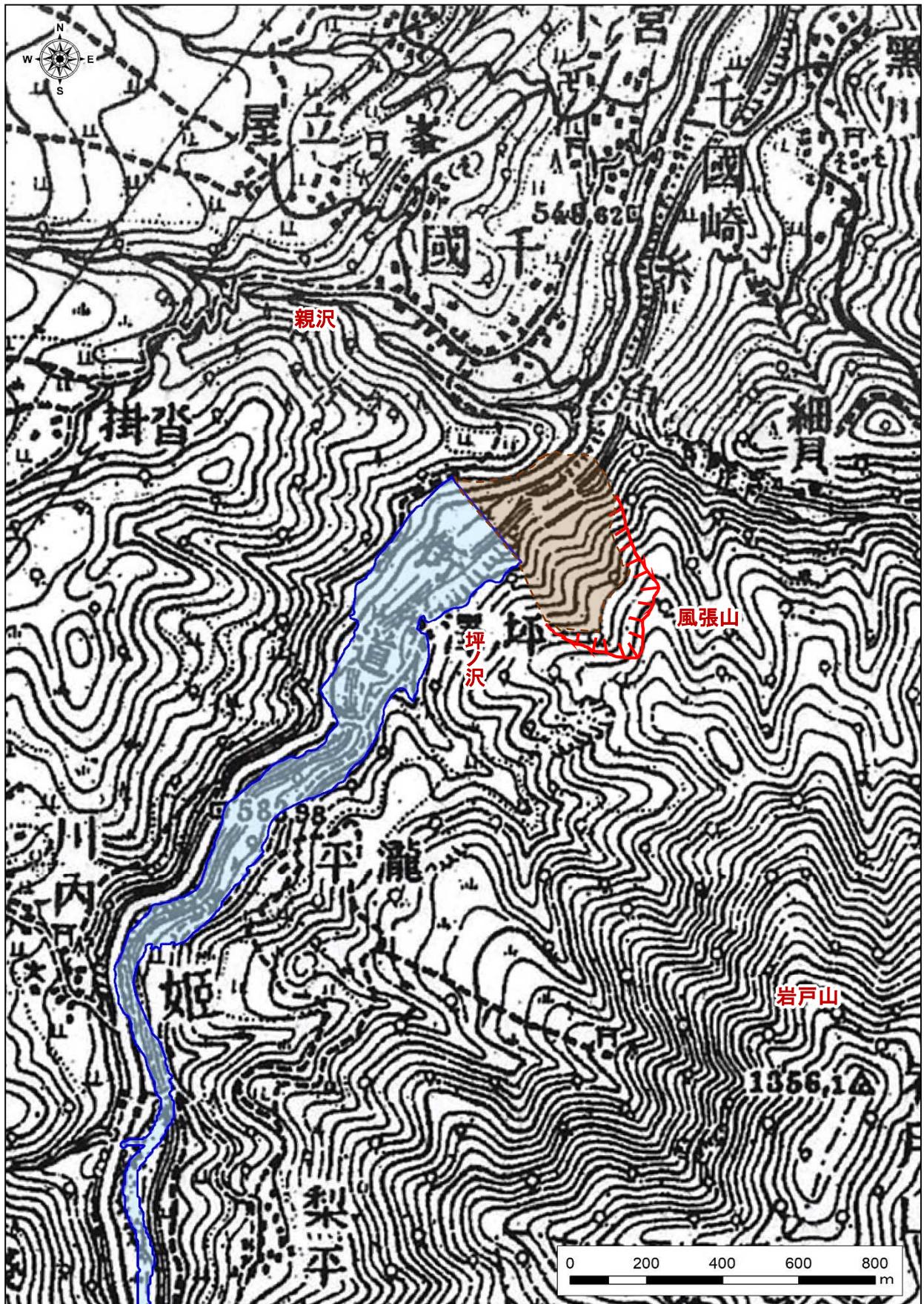


図 2.33 風張山の地すべりと天然ダムの湛水範囲の旧版地形図，（1/50,000 旧版地形図，「白馬岳」昭和 6 年（1931）修正測量に加筆）